

(5) デマンド交通【のーと日野】周知啓発・利用状況・運行継続条件**1) 周知啓発について**

- ・チラシのポスティング
(区域内 850 部配布)
- ・利用啓発動画の作成
(市 HP、市公式 YouTube チャンネルへ掲載)
- ・広報ひの
5月号にて運行概要の説明、7月号にて説明会の周知、
8月号にて公共交通利用 PR の一環として周知
- ・利用説明会の実施(2回)

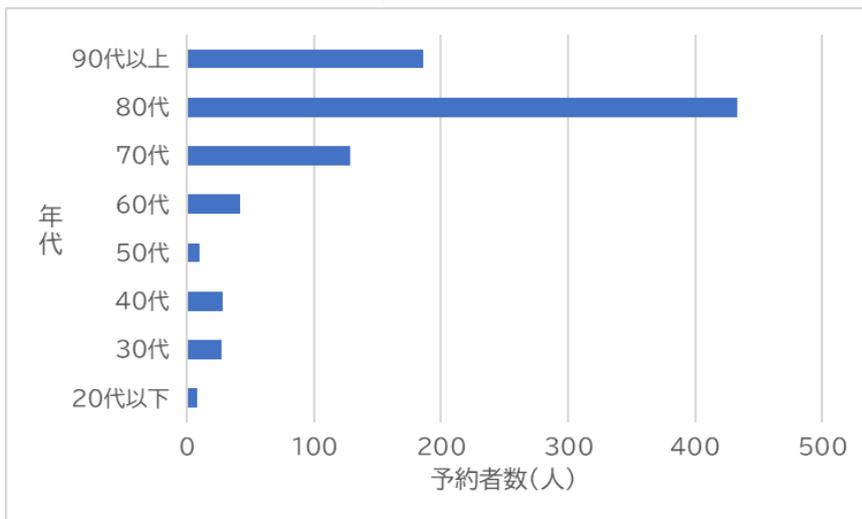
日時・会場	参加者数
R7.7/7 中央福祉センター	4人(別途25人に説明)
R7.7/10 中央福祉センター	5人
	合計 9人

【7/7 説明会写真】**【7/10 説明会写真】**

2)利用状況について(令和7年1月15日から令和7年6月30日まで)

区域内人口	11,404人 (R2国勢調査5次メッシュより)
登録者数(総数)	393人
登録者数(区域内)	179人
総利用(予約)回数	862回
総利用者数	1,010人

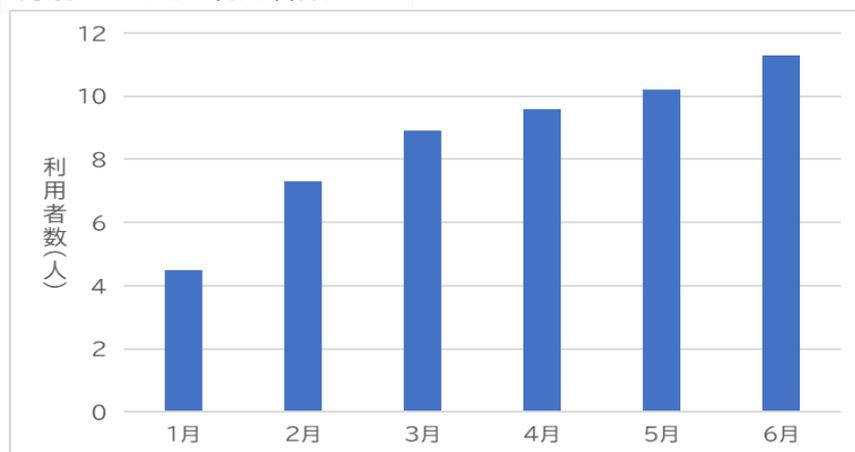
年代別利用(予約)数



予約割合

アプリ (のるーとアプリ、LINE)	30%
電話	70%

月別 日あたり利用者数



乗降ポイント別利用者数(上位10箇所)

乗車ポイント	乗車人数
1 日野駅東側	64
11 日野本町5丁目10番地	33
22 よつぎ日野保育園	28
48 第四小学校バス停(立川方向)	19
30 東町交流センター	17
36 中万願寺自治会広場	14
2 ウェルパーク日野栄町店	12
33 甲州街道駅(南側)	11
48 第四小学校バス停(立川方向)	8
33 甲州街道駅(南側)	6

降車ポイント	降車人数
1 日野駅東側	111
3 栄町クリニック	30
19 市民の森ふれあいホールバス停(立川方向)	16
44 万願荘バス停(立川方向)	11
47 第四小学校バス停(日野駅方向)	10
32 甲州街道駅(北側)	7
48 第四小学校バス停(立川方向)	6
36 中万願自治会広場	6
33 甲州街道駅(南側)	6
7 井上源三郎資料館	6
2 ウェルパーク日野栄町店	5
37 日野北郵便局	5

3)運行継続条件について

(1)地域協働型交通運行継続条件について

「地域協働型交通の導入ガイドライン」では「運行継続条件」を次の通り定め、この条件を満たすことを支援要件の一つとしている。

地域協働型交通運行継続条件（※①かつ②を満たすこと）

①車内の平均乗車人数 2.0 人以上

②行政補助額 600 万円以内

【第 48 回交通会議のおさらい】

①の需要面に関する基準については、主に路線定期運行型の公共交通を想定したものであり、デマンド型交通では「車内の平均乗車人数」を正確に算出することは困難であるため、指標とすることはなじまないという結果となった。

②の財政負担額に関する基準については、推計値では基準の 600 万円を大幅に上回り、基準をクリアすることは困難であるという結果となった。

以上のことから、デマンド型交通の運行継続条件は実証実験を通じた動向を踏まえ、検討することとした。

(2)需要量に関する基準

「地域協働型交通の導入ガイドライン」では、基準運行サービスにて、運行間隔を以下の通り定めている。

基準運行サービス（運行間隔）

車両1台で運行可能な運行回数の設定(運行距離により決定:概ね30分~1時間間隔)

また、乗合の公共交通機関であることから、平均的に2人以上が利用していることを条件とする。

$$8\text{時間(運行時間)} \div 30\text{分(運行間隔)} \times 2\text{人(乗合)} = 32\text{人(日当たり利用者数)}$$

以上のことから、1日あたり32人以上が利用する交通であることが好ましい。

(3) 財政負担額に関する基準

市の補助を受けているミニバス、ワゴンタクシーでは、「負担額の際限なき拡大」を抑制するため、路線見直し基準にそれぞれ収支率を設けている。

ミニバス:収支率が20%未満
ワゴンタクシー:収支率が15%未満

「のるーと日野」の収支率をワゴンタクシーと同じ15%とする場合は以下の通り。

約 29,000,000 円(R7 運行経費)×15%=4,350,000円(1年あたり運賃収入)

4,350,000円(1年あたり運賃収入)÷242日(令和7年度運行日数) =約18,000円(1日あたり運賃収入)

以上のことから、1日あたりの運賃収入が18,000円以上であると、ワゴンタクシーと同程度の収支率となる。

財政負担額を検討する参考として、デマンド交通「のるーと日野」の補助額及び推計年間利用者数を再掲する。

年間補助額	28,787,907円(R7予定)
年間想定利用者数	2,856人(R7.6実績×12か月)

(4) 交通事業者の協力

デマンド交通「のるーと日野」はタクシー事業者により運行しているため、協力いただける交通事業者がいることが必要。

(5) 運行継続条件の考え方

需要量及び財政負担額の観点を踏まえ、1日の平均利用者数を基準として定めることができる。運行実績の確認は運行開始から1年間の利用者数を集計することとしているが、運行開始してからの周知啓発もあり、利用者数が増加傾向にあるため、傾向も踏まえた数値において確認することが好ましい。

(6) 今後のスケジュール(予定)

令和8年1月	交通会議にて、運行継続条件案を決定
令和8年度中	交通会議にて、運行状況から運行継続可否について判断
令和9年1月	本格運行または運行終了